

10 ～椋の木の下に集落内外の人が集う野菜市～ 天引むくむく市と活性化の歩み



天引区の活性化と未来を考える会 京都府 南丹市

手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

京都府南丹市の西の端にある天引区は、兵庫県丹波篠山市と隣接する山間の小さな村であり、林業で栄えた昭和39年には戸数85、人口421人でしたが、令和4年には戸数59、人口151人にまで減少し、55才以上が半数以上の準限界集落です。

天引区では、通行量が多い国道372号が村の中を通っている状況を活かし、道路に隣接するグラウンドで

野菜市を開催したり、集落内にある天引八幡神社や薬師堂、千体地蔵などの歴史的建造物を散策するツアー等のイベントを開催しています。また、集落内を流れる石積み水路は生き物にとって貴重な環境であり、令和3年からはこの水路の補修と石積み技術継承のため、石積み水路補修ワークショップを開始しました。



天引集落の風景
奥の道路が国道372号線



天引のシンボル 椋の木
手前のグラウンドで野菜市実施



天引のシンボル 薬師堂
年3回ライトアップ実施

2 取組の背景、取組概要と創意工夫

故郷消滅の危機感から、平成24年に全住民と地元出身者の有志で「天引区の活性化と未来を考える会」を結成。結成の際、先ず「自由に発言する」「人の発言をけなさない」「前例に囚われない」「夢を語る」の会議4原則を定め、皆が自由に前向きに発言できる場にしました。

会の事務局には様々な人に参加を促し、今まで

とは違った発想や実行力、人脈等を活かし、野菜市「天引むくむく市」や虫散策と音楽を中心とした「天引ほたるコンサート」のイベント等を開催しています。ただ、野菜市開催は月2回に抑える等、長続きできるように無理しないことを最優先とし、イベントのステージ等は、既成のものを積極的に活用するなど、無駄な費用の発生を抑えました。



野菜販売や屋台を出店する
天引むくむく市



地域の一大イベントに成長した
天引ほたるコンサート



石積み水路の
補修ワークショップ

3 活動の成果や波及効果等

「会」結成時に決めた会議の4原則は、自由闊達な話し合いを保障し、月刊紙「あまびき元気ニュース」は情報の共有を促しました。また、「天引むくむく市」等のイベントは地域の人が顔を合わせる貴重な場となっています。さらに集落外の人との交流が進む中で天引ファンが増え、天引への移住を希望する声も増えていきます。

現在、「会」の中にプロジェクトチームを立上げ、移住受入れの為に空家の紹介等を行っており、少しずつ効果が出始めています。



あまびき元気ニュース



むくむく市での交流の様子

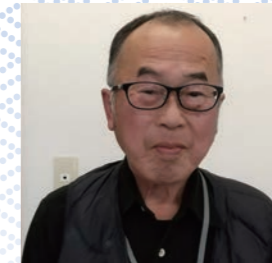


令和元年より開始した
買い物支援サービス



天引区の活性化と未来を
考える会の皆さん

喜びの声



受賞者

天引区の活性化と
未来を考える会
会長
小島 喜久男

コメント

10年の節目となる令和4年度にこのような賞を受賞することができ、本当に嬉しく思います。150人の小さな山間の集落ですが、自分たちがこの地で長く生きていくために、自分たちの回りにある豊かな自然と文化遺産を大切にしながら、無理せず暮らしていきたいと思っています。椋の木は皆様のお越しをお待ちしております。どうぞお越しください。

活動の内容

- 「あまびき元気ニュース」の毎月発刊
- 野菜市「天引むくむく市」の定期開催(月2回)
- 天引ほたるコンサートの毎年開催 ※現在休止中
- 水辺の生き物調査の実施
- 石積み水路補修ワークショップの実施
- 買い物支援等の高齢者支援サービスの実施
- 空家対策の実施

活動の経歴

- 平成24年 天引区の活性化と未来を考える会設立
- 平成25年 天引ほたるコンサートの開催開始
- 平成28年 天引むくむく市の定期開催開始
- 令和元年 買い物支援サービスの開始
- 令和4年 あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣総理大臣賞 受賞

所在地

京都府南丹市園部町天引

活動主体及び連絡先

天引区の活性化と未来を考える会
京都府南丹市園部町天引向井山25
TEL:0771-65-0152 FAX:0771-65-0152
E-MAIL:amabiki.kasseika@gmail.com

対象となる社会資本

国道372号線



手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編